

こおりやま広域連携中枢都市圏の取組

2022年5月

圏域形成に至った経緯

平成27年度の総務省「新たな広域連携促進事業」の実施を契機に、圏域内市町村と連携中枢都市圏形成に向けた協議を重ね、平成29年には初の市町村長会議を開催、平成30年9月には中心市である郡山市が「連携中枢都市宣言」を行った。平成31年1月、15市町村(郡山市、須賀川市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町)で連携協約を締結し、同年3月、都市圏ビジョンを策定した。

また、令和2年3月に二本松市、令和4年3月に磐梯町が新たに圏域に参加し、17市町村の体制となった。



今後の展開

- ・デジタルトランスフォーメーション(DX)化に対応するため、オープンデータ利活用サイトの構築、AI・RPAの導入促進
- ・「公民協奏パートナーシップ協定」により地域経済の活性化や住民サービス向上の取組の深化を目指す
- ・「次期都市圏ビジョン2024-2028」策定を見据え、専門的知見を有する外部人材を活用し効果的な新規事業創出につなげる

圏域全体の経済成長のけん引

SDGs推進 プロジェクト

⇒ 「持続可能な開発目標」SDGsについて、圏域全体で取組を推進



SDGsの達成に向けて、セミナー開催、SDGsアワードの実施等圏域全体で取組みを推進
「健康」をキーワードにオープンデータを活用した分析及び対策を推進

エリアプロモーション プロジェクト

⇒ 様々なチャンネルを活用し、こおりやま広域圏の魅力を効果的・効率的に発信



(例) 広域圏ポータル

圏域の取組みやイベント、PR動画等、広域圏関連の豊富なコンテンツを掲載

高次の都市機能の集積・強化

福島県の中央に位置する地理的優位性や福島空港が立地するなど、圏域内外との充実した交通網を生かし、地域経済をけん引する高次都市機能の誘導や未利用地等の活用により、「こおりやま広域圏の玄関口」に相応しい良好な中心拠点の形成を図る

圏域全体の生活関連機能サービスの向上

DX(デジタルトランスフォーメーション) 推進 プロジェクト



⇒ Society5.0社会の実現を目指してICTをフル活用、新たな社会・経済システムの創出を促進

(例) 働き方改革の推進

AI活用、RPAやウェブ会議システムの運用等により、業務効率を向上

チャレンジ・スタートアップ プロジェクト



⇒ 様々なチャレンジ・スタートアップを支援、圏域のフロンティア開拓を促進

(例) スモールスタート支援

まちづくりに取組む事業者等を資金面、ノウハウ面で支援

わかものボーダレスプロジェクト

若者の視点による新しい発想による取組み

住民の安全・安心 プロジェクト



⇒ 蓄積された情報・ノウハウを共有し、圏域全体の住民の安全・安心な生活を確保

(例) セーフコミュニティの推進

セーフコミュニティの活動、成果、ノウハウ等の情報を共有

1. こおりやま広域圏の形成

- 構成：17市町村（5市8町4村）※中枢都市：郡山市
- 人口：約63万人（福島県の約3分の1）
- 面積：約3,373k㎡（福島県の約4分の1）

連携中枢都市圏の形成

郡山市が
連携中枢都市宣言
(2018年9月4日)

郡山市と14市町村が
連携協約を締結
(2019年1月23日)

郡山市が
連携中枢都市圏ビジョンを策定
(2019年3月19日)

二本松市、磐梯町と
連携協約を締結
(2019年10月、2022年2月)

国（総務省）が設置する「連携中枢都市圏構想推進要綱」に基づき「こおりやま広域連携中枢都市圏（通称：こおりやま広域圏）」を形成する17市町村

【構成市町村】

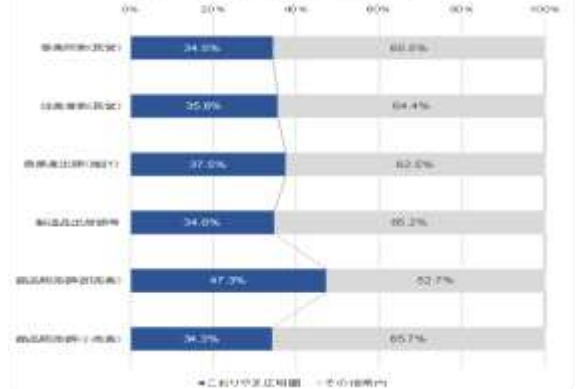
郡山市、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、磐梯町、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町



2. こおりやま広域圏の現状

- 経済産業の状況
 - 第1次、2次、3次産業等の状況
 - ⇒ 県内でも卸売業をはじめ高いシェアを占める
- 都市機能の集積
 - 医療福祉、教育・文化・スポーツ
 - 商業施設、国の機関等が集積

(例示) 産業項目別県内シェア



多様かつ高度な産業や研究機関が集積された「**経済県都**」圏域

様々な分野で住民や情報研究成果が行き交う「**知の結節点**」圏域

(例示) 産業研究機関の集積

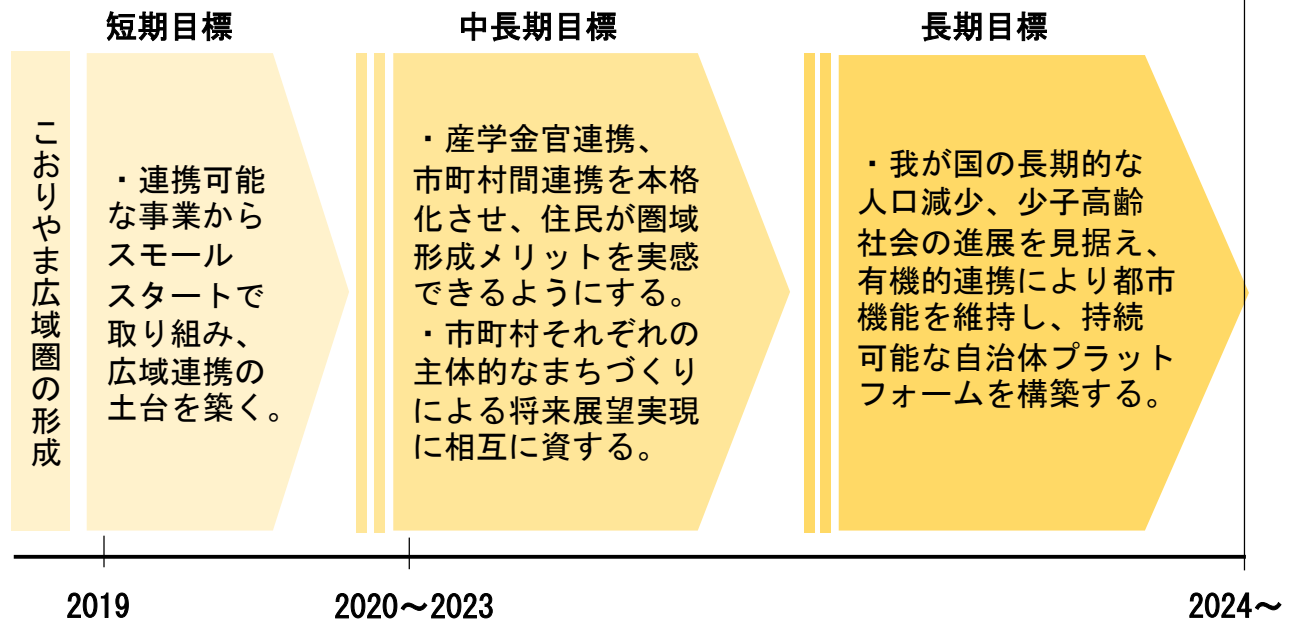


3. こおりやま広域圏の将来像と目標

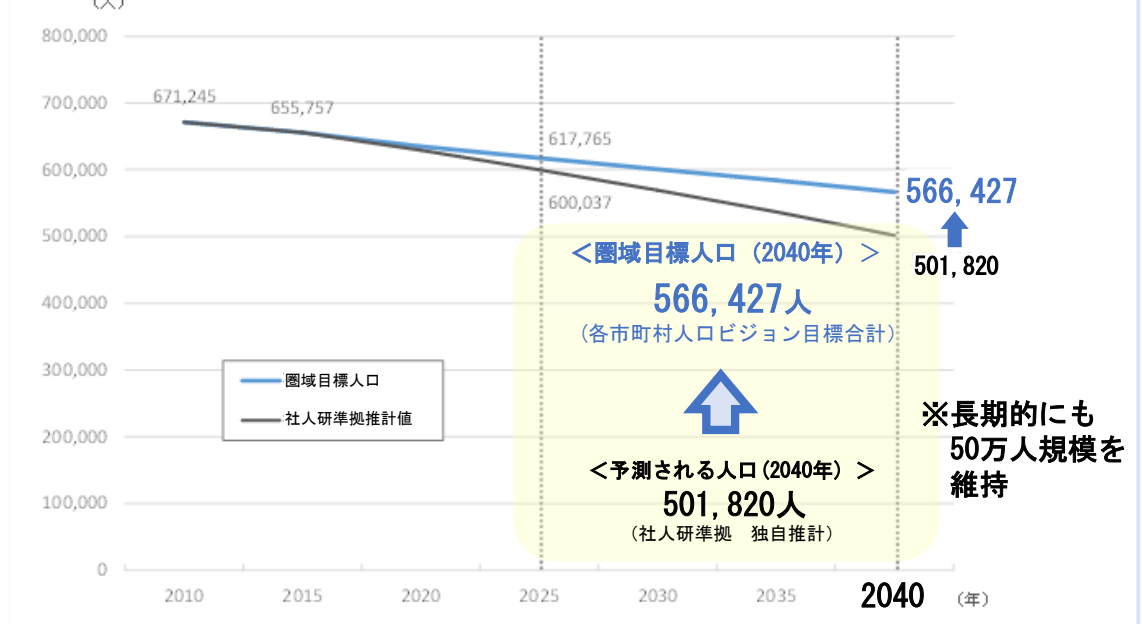
将来像

「広め合う、高め合う、助け合う」こおりやま広域圏 ～ 持続可能な圏域の創生 ～

< 圏域の中長期的な目標 >



< 圏域の人口目標 (2040年) >



4. 取組の全体像

経済成長のけん引

【世界を視野に入れた圏域内外との「ボーダーレス」な産業振興を展開】

主な連携事業



◆創業支援事業

圏域内の創業者育成、新たな事業展開に取り組む中小企業者の応援



◆産業イノベーション事業

再エネ・医療機器関連産業の集積・育成、新事業・新産業の創出



◆6次産業化プロジェクト

広域圏内の食の魅力向上、消費拡大及びブランド確立



◆インバウンド推進事業

外国人観光客の受入環境整備、プロモーション実施による外国人誘客促進

高次の都市機能の集積・強化

【多様性を受容する「コンパクト化・ネットワーク化」を推進】

主な連携事業



◆広域的な医療体制の構築

医療体制の広域連携(機能分化やネットワーク構築等)に関する調査検討



◆広域的な交通網の形成促進

地域交通の課題等についての調査検討、交通網形成による利便性の向上



◆福島空港利用促進による地域活性化

関連する各種協議会等と連携しながら福島空港の利活用を促進



◆高等教育等の推進による多様な人材育成

圏域内の高等教育機関等と連携を図り、産業振興、地域人材育成を推進

生活関連機能サービスの向上

【「学び、働き、暮らし続けることができる」圏域づくり】

主な連携事業



◆災害対策

圏域全体での災害対策推進、広域避難等、防災体制の充実



◆長寿社会対策推進事業

地域において活躍できる高齢者の養成、高齢者自身の社会参加促進



◆環境対策

地球温暖化対策、エネルギー地産地消促進等



◆図書館、文化スポーツ施設等の広域利用

圏域内における施設の相互利用を促進、有効活用



◆移住・定住促進事業

こおりやま広域圏の魅力発信、潜在的な移住希望者の掘り起こし等



◆研修・人材育成等

各種研修ネットワークや共同研究による人材育成、カイゼン運動の推進等

こおりやま広域圏の強みを生かす！

横断的な『重点プロジェクト』

I SDGs推進プロジェクト

⇒「持続可能な開発目標」SDGsについて、圏域全体で取組を推進



国連で決めた「2030年までに世界をより良くするための目標」。“誰一人取り残さない”をスローガンに、17のゴール(具体的な169のターゲット)を目指す。

II DX(デジタルトランスフォーメーション)推進プロジェクト

⇒ Society5.0社会の実現を目指してICTをフル活用、新たな社会・経済システムの創出を促進



(例) 働き方改革の推進

AI活用、RPAやウェブ会議システムの運用等により、業務効率を向上

III エリアプロモーションプロジェクト

⇒ 様々なチャンネルを活用し、こおりやま広域圏の魅力を実効的・効率的に発信



(例) 広域圏ポータル

圏域の取組やイベント、PR動画等、広域圏関連の豊富なコンテンツを掲載

IV オープンイノベーションプロジェクト

⇒ 多様かつ高度な産業研究機能が集積されている環境を生かし、様々な研究連携を促進



(例) 広域圏アンバサダー

圏域内で活躍する事業者等による「地域の応援団」を結成し、先進的・発展的な視点を導入

V チャレンジ・スタートアッププロジェクト

⇒ 様々なチャレンジ・スタートアップを支援、圏域のフロンティア開拓を促進



(例) スモールスタート支援

まちづくりに資する取組を始めようとする事業者等を資金面、ノウハウ面で支援

VI 住民の安全・安心プロジェクト

⇒ 蓄積された情報・ノウハウを共有し、圏域全体の住民の安全・安心な生活を確保



(例) セーフコミュニティの推進

セーフコミュニティの活動、成果、ノウハウ等の情報を共有

横断的に推進